

# 夢窓幼稚園通信第10号

2021年4月28日

春宵一刻直千金 花有清香月有陰 ……  
中国にいしえの詩人 東坡居士(蘇軾)の歌が心に浮かび  
耳元に響きます。

空を見上げると 毎夜へ、そして此宵も輝く美しい満月です。  
「月を仰ぎ見ることができた 次の日は、いい日になる!」と、  
今度は 心の中から うれしいフレーズが思わず響いてきます。

子どもたちが たっぷり昼間をたのしんで、いい夢をみるように、  
私たち大人の宵は、先達から今日までの長いながい百億千億  
の夜を 私の内て「今」の体験として感じられ、またはじめての  
魅惑的なことを生み出せそう … わくわくの時間です。

もちろん それは、宵に限ったことではなく、春の朝も昼間です…

朝から すがすがしく、子どもたちの元気を声が響きます。  
たくさん作った、さらこなを、かわいい手の平いっはひにして  
見せにきてくれる子がいます。

3人の子が頭を花壇につ、込むようにして、一心に虫さがしを  
している後姿に、いのちの輝きを感じます。

乗り物を楽しんだり、走り回って まっ赤な顔の子もたくさんです。  
たっぷり遊んで おひるごはんが近づいた頃、ギターで春の風を  
鳴らし、いっはひとうたい出すと、水筒を持って廊下にあちらこちら  
から集まってきて、お茶を飲んだり、手をふりふりしたりうたったり  
……春満喫の表情です!

最近手にした本で、デンマーク語の *naer væt* (ネアヴァ) という  
言葉を知りました。

ひと言の日本語には収まらないようで ……

「その場に存在し、今そこで起きていることに関わる」という言葉の  
ようです。また「自分の行動を意識して、共にいる人にしっかりと  
心を向ける」という意味も含んでいるそうです。

「今の瞬間を深く、大切に」生き方から生まれてくる言葉なので  
しょう。

5月 そんなふうに 生きてみたいと思いました。  
月を仰ぎ見ることができた 次の日は、「いい日にしたい」といつも  
より少し勇気をもって生きられるのかもしれない。

園長 升光 泰雄